

(草稿)



私の生命の記録

はじめに

「人の細胞の数は、体重六十キロの人で六十兆個もある。そして人の細胞一個の核に含まれている遺伝子の基本情報量は三十億の化学の文字で書かれている。これだけ精巧な生命の設計図（ヒトの遺伝子情報）を、いったい誰がどのようにして書いたのか？」

まさに奇跡としか言いようがなく、人間業をはるかに超えている。」

これは、バイオテクノロジーの世界的権威といわれる筑波大学名誉教授の村上和雄が、著書『命の暗号』に書いた話である。

私が生まれ、大病もせずに六十四歳まで生きてこられたのは、六十兆個の細胞の遺伝子が見事な調和を保って働いてくれたおかげである。

しかし、六十兆個の細胞と三十億の化学の文字で書かれている遺伝子情報による生命の創造、活動、死までの工程は未解明である。遺伝子情報の解明だけでは、ロボットを製造する様にヒトを生産して、生活史を全うさせることは出来ない。死までの工程は人間業をはるかに超えた生物技術なのである。

つまり、私が生まれて、活動して、死ぬことは、生物技術の分野ではまさに奇跡であり、人間業をはるかに超えた事象なのである。

私は、奇跡によって授かった生命の記録を後世に少しでも残さないと、幸運な人生がもつたいないと思い、生活史を綴ることにした。

二千二十年八月二十八日

加藤 稔

目次

一、誕生と死	一頁
二、幼稚園	四頁
三、小学校	六頁
四、中学校	十頁
五、高校	十四頁
六、大学	十八頁
七、新潟県土地改良事業団体連合会の辞令	三十六頁
八、筑波研究学園都市く農業土木試験場（二十三歳）	四十頁
九、新潟県土地改良事業団体連合会のクラブ活動等	五十一頁
十、結婚	五十三頁
十一、社団法人 農村環境整備センター（四十四く四十六歳）	五十六頁
十二、転居（十四回）の記録	
十三、残日録（くく〇〇〇歳）	

（ 草稿 ）

一．誕生と死

私は、昭和三十一年六月十二日、新潟市旭町通一番町七百五十四番地で加藤斗南と加藤久夫妻（写真の零）の長男として生まれた。加藤家系図は（書の二）。父は加藤斗南、大正八年七月七日、新潟市西堀通一番町七百七十番地で加藤小五郎と加藤ヨシ夫妻の二男として生まれた。第二次世界大戦の太平洋戦争（大東亜戦争）で、朝鮮（書の一）とフィリピンに出兵した。フィリピンで九死に一生を得た話を聞いたが、あまり話したくない様子であった。新潟県信用農業協同組合連合会に勤め、業務で世界一周旅行をして副参事まで出世し、五十九歳で退職、引き続き、新潟県農業信用基金協会の事務局長として約二年働き、六十一歳で退職、年金生活を謳歌していたが、八十二歳で他界した。大好きな海釣りで、未明に、釣舟を波打ち際まで牽引するクローラーダンプを砂浜で運転中に、波が洗堀した穴にはまって、横転し、誤ってダンプの下敷きになり圧死した。私が四十五歳の時であった。今でも、父に誘われてキス釣りやアジ釣りに同行したことを思い出す。母が料理してくれたキスのフライやアジの南蛮漬は、私には最高の御馳走で、一生忘れられないおふくろの味である。

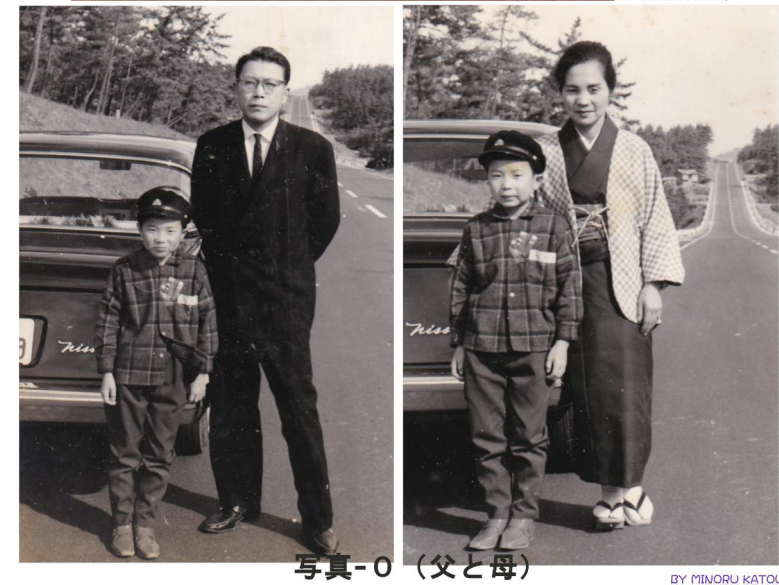
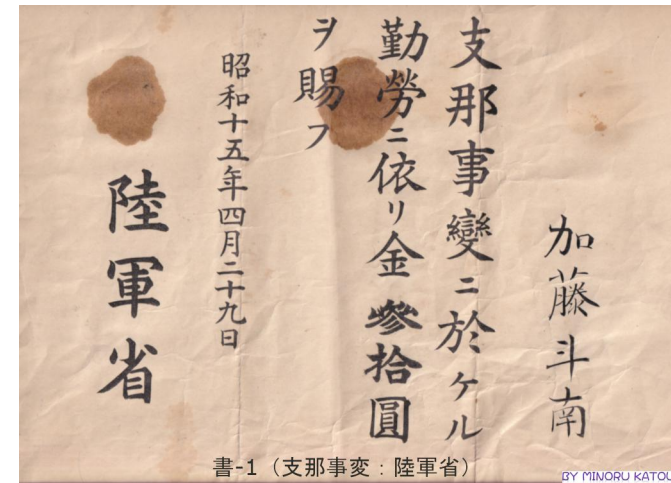
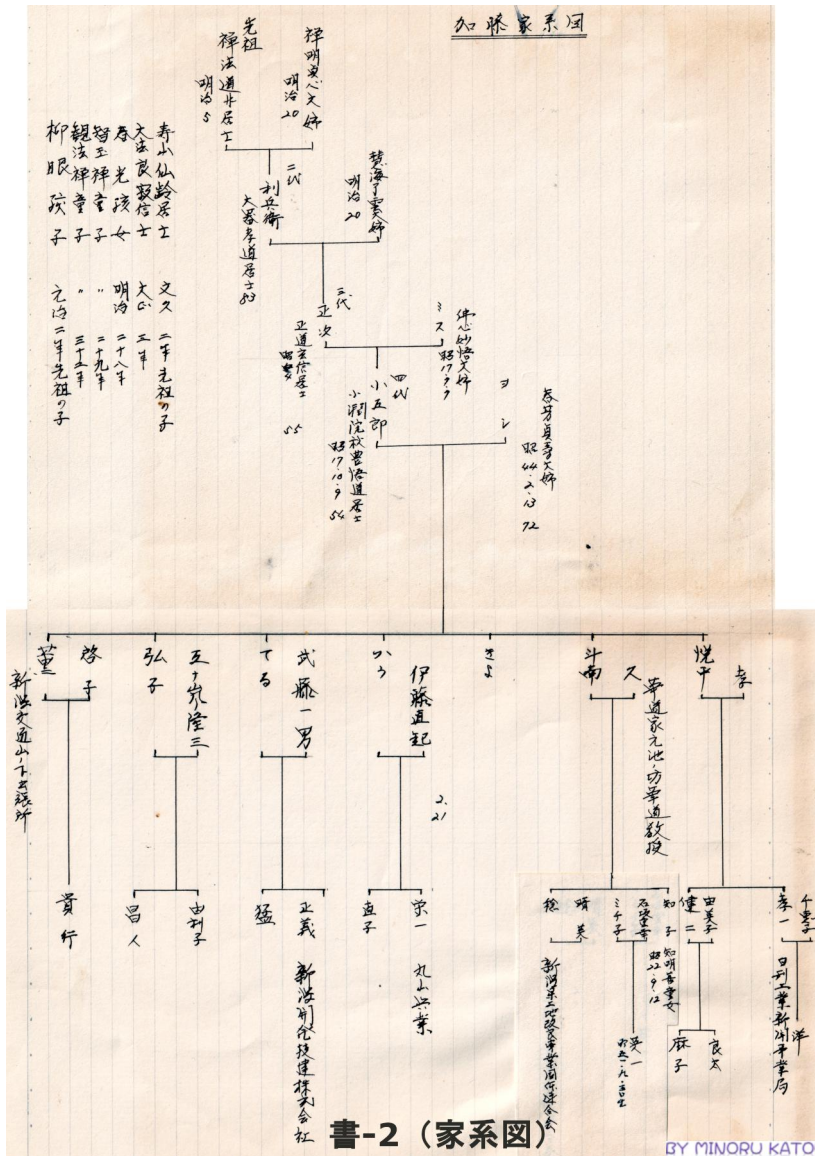
母は加藤久、大正八年八月十日、新潟市住吉町二千五百八十九番地で一山勝八と一山リイ夫妻の長女として生まれた。結婚前は、新潟市学校町通の一山呉服店の箱入り娘で、県の役所でタイプライターとして働いていた。父との馴れ初めは、叔母さん達（父は七人兄弟で四人の妹がいた）に聞いたことがあるが、忘れてしまった。昭和十八年十一月二日に入籍、結婚当初は、西堀の父の実家

で舅姑、小姑と一つ屋根で暮らしていた。戦争中に長女の知子、終戦後に次女のミチ子、長男の稔（私）の三人を産んだ。しかし、ミチ子が生まれた年に知子は肺炎で他界した。医療物資の不足等により、三歳の幼い命が失われた。母の悲しみ、無念は計り知れない。その悲しみの裏返し、溺愛を一身に受けたのはミチ子であつたかも知れない。私はミチ子より十歳年下なので、ミチ子の子供時代は全く分らない。私が小学生の頃に、ミチ子が私の母親だと勘違いされるのが度度あつた。歳が離れすぎて一緒に遊ぶことが無かつたせい、ミチ子との思い出はほとんどない。ミチ子は晩年、癌を発症し長い闘病生活の末に五十四歳で他界した。父が他界してから三か月後のことであつた。

母は、華道家元の池坊で、最高位の免状「総華督」の職位となり、生け花教室を開いたり、自慢の生け花を全国の池坊の花展や近所の天神さまのお祭りに出展していた。いつもたくさんの花が、玄関、食堂、応接間に生けられていた。父が他界してから一年ほど一人暮らしをしていたが、生け花教室の弟子や隣人の助言により、老人ホームに入ることを決断した。母は、子供に面倒をかけない老後を望んでいた。老人ホームでの生活は、暫くは生け花を披露して楽しそうであつた。しかし、晩年は自室に閉じこもる時間が長くなった。癌が再発して済生会新潟病院に通院していたが、老人ホームを退所して半年ほど入院し、八十九歳で他界した。私が五十二歳の時であつた。

私は、肉親が他界して、現世で独りぼっちになったが、それほど悲しくはなかった。皆が生活史を全うしたと考えたからである。現在、愛妻がいるが子供はいない。生きる意味を考えながら、残りの人生を満喫しようと思う。

(草稿)



二・幼稚園

引越し用ダンボールに眠っていた古いアルバムの中から、高田幼稚園の看板が半分写った写真があった。二十人以上の子供が列を作って三人づつ手を繋ぎ門から道路へ出るところの瞬間を撮った写真(写真の一)である。子供達は同じ帽子を被り同じ制服を着ているので、どこに私がいるのか分からない。写真には、手の矢印を挿入して私の位置を示したが、あまり自信がない。

旧高田市に住んでいた時に毎日遊んだ近所の仲良し(写真の二)は、隣の家のミツヒロ君(右端)と向いの家のタカコちゃん(左端)であった。後ろの左側に立っているのは姉のミチ子、右側は母の久である。背の高いミチ子が若奥さんで、母がおばあちゃんに見えてしまう。指をしゃぶっている私とミチ子との精神年齢の違いがよく分かる瞬間である。ミツヒロ君の家に遊びに行つて、飼い犬に噛まれて泣いて帰ってきたことを思い出す。ミツヒロ君は年上で身体も大きく、喧嘩をするたびに、泣きながら家に帰ってきた。しかし、翌日になると、昨日のことはケロッと忘れて、またミツヒロ君の家に遊びにいった。私は箱入り息子の様に育てられたのか、弱虫で泣き虫であった。ところが、タカコちゃんの家では、月光仮面のお面を被って、我が家の様に勇ましく駆けまわっていた。母の計らいで、数か月間ヤマハのピアノ教室に通った。「主人は冷たい土の中に」が弾けるようになった。私の誕生日会(写真の三)では、大好きなセツちゃんが隣の席に座ってくれた。嬉しいけどちょっと恥ずかしい、カメラ目線になれなかった。七人の友達が写っているが、タカコちゃんとセツちゃんしか覚えていない。幼稚園時代は、多くの人に、大変お世話になった。

(草稿)



三．小学校

三年生までは旧高田市の南本町小学校に、四年生から六年生までは新潟市の関屋小学校にお世話になった。

南本町小学校では、小野塚くんが友達であった。小野塚くんは読書家で、勉強も良くできた秀才であった。母のお気に入り友達で、お互いに家を行き来して、本を貸し借りしたり、一緒に勉強をした。彼は育ちが良さそうな顔をしていた。彼と友達になったきっかけは思い出せない。たぶん、母が遊びに行つて来いと言ったのかも知れない。母は教育ママであった。通信簿で「5」を取つたり、テストで百点を取ると母はとても喜んでくれた。私は教育ママに斟酌していたのかも知れない。そのストレスからか、本町通りの悪ガキたちと、ビー玉、パッチ、ベーゴマ等で良く遊んだ。小学校の近くに線路があつて、悪ガキたちと線路に石を置いたり、列車に向かって「2B弾」を投げて、スリルを楽しんだことがあつた。列車が脱線しなくて本当によかった。悪ガキたちとは愛称で呼び合っていたので名前は覚えていない(写真の四)。たぶん一度だけ、片先生の家に行ったことがあつた。右手が親指しかないが、万年筆を器用に握つて、個性のある綺麗な字を原稿用紙に書いていた。優しくおっとりしていたが、「努力」を実践している人だと思った。残念だが、片先生の写真は無い。クラスで遠足した時の写真を見つけた(写真の五)。私は不貞腐れて、一人だけ休めの格好をしている。「あゝあ、遠足なんて面白くない。疲れたな。」という表情である。皆も笑顔はなく浮かない顔をしている。南本町小学校の三年間はストレス発散とスリル満点、詰まる所、不貞腐れていた。

(草稿)



新潟市に引っ越して最初に、ボーイスカウトに入団した。入団の切っ掛けは覚えていないが、当時の流行であったかも知れない。佐渡島で一泊二日の合宿があった(写真の六)。夜中にテントを抜け出して、満天の星空を見て驚いた。街中では見えなかった星が夜空を埋め尽くしていた。天の川の迫力に圧倒されたのを覚えている。手旗信号、もやい結び、飯盒炊飯、テント設置、あさりの鉄板焼き、ヌード写真、エロ本等、学校では決して教えてもらえない事も、年上の隊員から指導してもらった。関屋小学校では、「カッチャ」と呼ばれていた。ドリフターズの加藤茶と名字が同じだったからである。卒業アルバムを見ると、クラブ活動は野球クラブ、専門部活動は理科センター部、マラソン大会は三十六人中の二十四位で、特に思い出に残るエピソードは無い。野球は補欠だったし、理科センター部では何をしたのか覚えていない。休日は、同級生数人とマイ自転車の自慢話に花を咲かせ、学校のグラウンドで草野球等して過ごした。夏になると、自慢の自転車に乗って、頻繁に海水浴に出かけた。帰りに食べるイチゴ味のかき氷とラーメンが絶品であった。同じクラスに従妹がいた。私は転校生なので彼女から色々とアドバイスをもらったが、学校では互いに知らん顔をしていた。彼女は身体が弱くて体育の水泳を見学していることが多かった。書道クラブに入っていたが、実はピアノ演奏が得意だった。六年生の修学旅行は会津若松であった(写真の七)。写真の真ん中にスカートの短い女の子がいる。同級生達と、彼女のスカートめくりをして泣かせてしまい、先生にたっぷり怒られたことがあった。写真では、私一人だけしゃがみこんで、不貞腐れた顔をしている。どうも人の輪に溶け込むことが苦手なようだ。

(草稿)



四・中学校

関屋小学校の時に引越したので、学区の違う鳥屋野中学校に入学した。一年生と二年生の思い出はほとんど残っていない。卒業アルバムを見るとクラスは三年五組で、修学旅行は仙台、松島、平泉（写真の八）で、運動会は青組の組長を務め、生徒会は図書委員、クラブは美術部（写真の九）であった。修学旅行では、ヤシカのマイカメラを常に持ち歩き撮りまくった。半分以上はピンボケであったが、密かに好意を抱いていた彼女の写真はきれいに撮れていた。しかし、被写体になる機会が少なく、自分が写った写真はほとんど無かった。小さな恋のメロデーという映画を見に行った。ヒロイン役のトレーシーハイドが可愛くて、パンフレットの彼女をコンテで描いた。それを、文化祭で美術部のコーナーに飾ったが、美術部顧問から不評を買った（写真の九）。ブルースリーのカンフー映画に感化されて、二年生の後半ぐらいから、筋トレ用具のテレパンダーを買った。それが壊れると同じメーカーのブルワーカを買って、毎日欠かさず筋トレに励んだ。三年の夏休みのキャンプで福島県の裏磐梯、檜原湖へ行った（写真の十）。その頃には、上腕が太くなり、肩幅も広がって、体格が良くなっていた。ちょっとだけ、女子にモテた。夏頃から高校受験の勉強が佳境に入ってきて、精神的にも肉体的にも充実した時であった。人の輪に溶け込むことが少しは出来るようになり、自分に自信が持てるようになった。さらに、冬には同級生と日帰りスキーに出かけた（写真の十一）。同級生の家で、初めてカップヌードルを御馳走になった。カップを手に持った時、中身が何か分からなかった！、ヌード写真？、まさかラーメンとは思わなかった。

新潟高校を受験するために、英語の家庭教師の家に数か月間通った。家庭教師は、関屋中学校の英語教師であった。私の英語の成績は、合格ラインに届いていなかった。西堀の加藤家では、校長先生だった悦平伯父さん、彼の次男の健二さん、父の斗南が新潟高校を卒業していたので、両親や西堀から随分とハッパをかけられた。中学三年生では高校受験が現実のものになる。将来どんな仕事を目指すのかは二の次で、新潟高校に合格するための勉強に集中して取り組んだ。とにかく新潟高校に合格するしかなかったのである。中間テスト、期末テスト等、テストは何でも、点数と成績順位を常に同級生と比べた。同じクラスに学年トップのYさんがいた。理数系はYさんと互角に戦えたが、文系は後塵を拝していた。Yさんは、いわゆる秀才であった。総合点では、とても敵わなかった。ところが、放課後、教室で一人居残りをして黒板に向かっていたら、突然Yさんが現れた。Yさんは万年筆のケースらしきものを私に差し出して、「私と交際してください」と言った。Yさんは色白の面長で細身で髪が長く、育ちの良さそうな人であった。ただし身体が弱く、運動は苦手であった。異性から告白されたのは、この時が初めてだった。しかし、その頃、私には好きな人がいた。丸顔でこけしの様な顔をした同じクラスのAさんであった。家も近くて、排水路一つ隔てた隣の団地に住んでいた。Aさんに告白したくて、彼女の家の周りをうろついたこともあった。修学旅行の時にマイカメラで撮った彼女である。その頃に秀才のYさんに告白されたのである。私は、「好きな人がいるので、君とは交際できない」と、その場で無愛想に言ってしまった。Yさんは恥ずかしそうで悲しそうな表情を浮かべた。その瞬間、私は「しまっ

た」と思った。優しく話しかければ良かったと。Yさんとゆっくり時間をかけて話をすれば良かったと。Yさんの心を傷つけたことを今でも後悔している。

新潟高校に合格した。両親や西堀の伯父さんは、大喜びだった。合格発表の次の日に朝六時集合で、数人の同級生達と新潟アイスリンクの早朝ボーリングに行った。受験勉強から解放された気分を満喫した。午後は、スケートをした。別のクラスの男女も集まった。その中には交際しているカップルも来ていた。残念ながら、私の好きな彼女は居なかった。ところが、しばらく経ってから、クラスメートのF君がスケートリンクで転倒して後頭部を強打してしまった。彼女と手を繋いで滑走していたが、エッジを使ってうまく止まることが出来ずに、前につんのめって、後ろにそっくり返って転倒した。私は、彼らの後方でコーナを滑る練習をしていたので、一部始終を偶然見てしまったのである。彼は起き上がって、後頭部をハンカチで抑えて、彼女と一言二言話をして、彼女を残したまま、スケートリンクから立ち去ってしまった。彼は一人で病院へ行ったらしい。ちょうど後ろから近づいてきた私を見て、彼女の友達が「彼が病院から帰って来るまでの間、加藤さんと滑ったら」と助言したのだ。彼女は別のクラスのKさんで、一度も話したことはなかった。突然、私はF君の代役で彼女とスケートを滑ることになった。なんと彼女はスケートが初めてだったのだ。手を繋いで彼女を引っ張って、ゆっくりと真直ぐ滑って、リンクの壁にぶつかって止まる練習をした。止まるたびに彼女は私の腕にしがみついてきた。私は悶々となってしまった。女子に抱きつかれたのはこれが初めてであった。中学校の三年間は、いろいろな経験をした。人生の礎を築いた様な気がする。

(草稿)



五・高校

新潟高校は校則が緩く、社会勉強の場であった。いわゆる法律に違反しない限り、放任主義を貫く教育方針であった。服装がだらしくなくても、授業をさぼっても、授業中に早弁当や居眠りしても、昼飯はラーメン屋やソバ屋で食べても、御咎めなしである。高校二年生の頃から隠れて喫煙する者が多くなった。ただし、喫煙は二十歳になってからなので、法律違反である。屋上に吸い殻が落ちていましたとか、便所が詰まりました吸い殻は捨てないように等と、担任から口頭で嚴重注意を受けた。一度、注意を受けると、二度と同じ失敗はしなかった。喫煙した痕跡を残さないように巧妙に立ち回ったのである。

とにかく、一人一人が個性丸出しであった。このような教育環境では、将来の目標をしっかりと持っている人は、クラブ活動や勉強を着実に熟していった。何も考えていない人は、適当に日々を過ごし、赤点をとらない程度に勉強していた。私の場合は、どちらかというと後者の方であった。将来どんな仕事をしたいのか、自分の将来を全く考えずに、合格してしまった。新潟高校に入学することがゴールであった。その先のビジョンや目標を持たない高校生であった。一年生の時にラグビー部に入部した。体格が良いという理由で勧誘された。想像以上にハードなスポーツであった。私はフォワードの練習をさせられた。フロントローの練習では、首の筋肉が炎症を起こすぐらいしごかれた。ボールスローやタックルの練習は楽しかったが、ボールをどこまでも追っかけて走り回るダッシュ練習は、きつかった。夏合宿には参加したが、二学期が始まってから、しばらくして退部した。体力的にも精神的にもついていけなかった。

十六歳になって、バイク（原動付き自転車）の免許を取得した。ペーパーテストだけの簡単な試験であった。オレンジ色のヤマハFX50というバイクを買ってもらった。約十万円弱であった。それから七年後の私の初任給が九万五
百円であったことから、十六歳の少年には大変高価な買い物であった。親に感謝である。買ってもらってから一週間後に新津（今の新潟市秋葉区）の県道でスピード違反で捕まり五千円の切符を切られた。親には言える訳がなく、私
へそくりから工面した。中学の同級生S君と頻繁にツーリングに出かけた。煙草はその時に覚えた記憶している。また、中学時代のクラスメイトであった
N子を後ろに乗せて海に行った。背中に心地よい温もりを感じた。ところが、
帰りにパトカーに捕まった。原動付き自転車は一人乗りである。N子の家まで
バイクを手押しして一緒に歩いて帰った。N子の家には誰もいなかった。彼女
が年上の彼氏の話をしたので、何もせずにコーヒーを飲んで、おとなしく我が
家に帰った。彼女とはそれっきりであった。交通違反で、また罰金をとられた。
高校に、ホンダのナナハンに乗ってくる人がいた。いつも、私の通学道路の
電柱の側に停めてあった。誰のバイクなのか気になっていたが、同学年のS君
のものと分かった。実は、私も寝坊した日は秘かにバイクで登校していた。私
は、ちよつと離れた関屋ハイツの塀沿いにバイクを停めていた。他校で、バイ
クの死亡事故が多発しており、バイク通学は学校の許可が必要であった。S君
のナナハンを見かけたことがきっかけで、彼と顔見知りになった。彼とカフェ
に行った。話題は、もちろんバイクのことである。そこで、初めてウイスキー
の水割りを飲んで、目がまわるほど酔っぱらった。S君に笑われた。彼から見

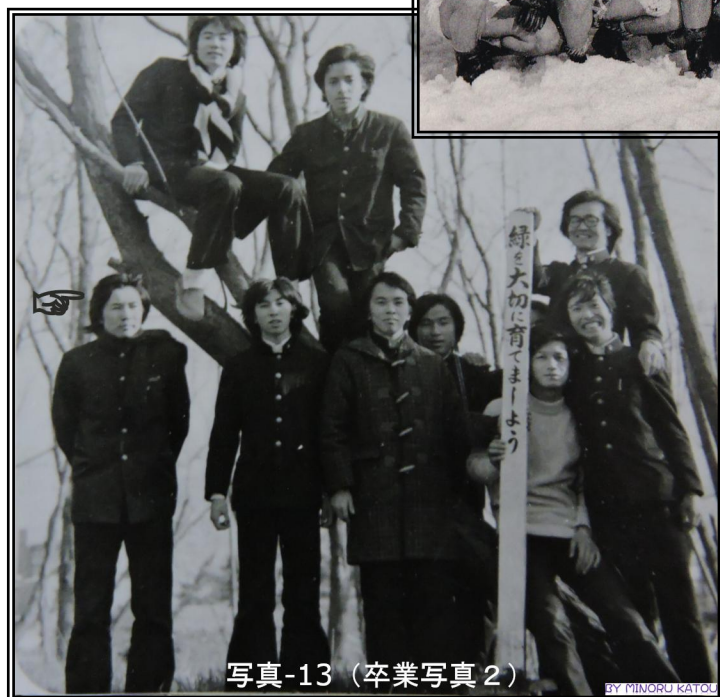
たら私はお坊ちやまであった。S君は見た目は怖そうな顔をしているが、意外と優しい人であった。夜は、スナックでアルバイトをしていると言っていた。

私服で古町によく出かけた。喫茶店でレスカを飲み、大好きなナポリタンを食べて、セブンスターを一本吸った。その後で、ジャズ喫茶へ行った。薄暗い部屋の中で、煙草の煙が立ち込め、音楽が爆音のごとく響いていた。店を出ても、しばらくの間、耳鳴りがした。名画座ライフへよく行った。入り口はジャズ喫茶の側にある小さな映画館であった。禁じられた遊び等の有名な映画を安い入場料で見ることができた。残念なことに一九八五年に閉館した。この頃から、銀座軒という名前の床屋さんへ行くようになった。洗髪後のリキッドはカネボウエロイカを指定した。結局、六十一歳まで銀座軒に通った。

キャンプ場へ行って炊事場の床に腰を下ろして、くつろいでいる写真があった(写真の十四)。かまどが空くのを待っているのかも知れない。行ったのは一年生か二年生の時である。三年生は十クラスあったが、二クラスだけが男子だけのクラスで、私は男子だけの三年二組であった(写真の十二と十三)。

修学旅行は京都であった。ところが、写真は一枚も残っていない。自由行動の日に、数人のクラスメートとガルドという名前の音楽喫茶に入って、ガロの「学生街の喫茶店」とバンバン(ばんばひろふみ)の「いちご白書をもう一度」を聞いて感傷的な気分になった。宿は二階建て木造の古い建物で、消灯後に窓を全開して、悪ガキ達と喫煙した。担任に喫煙を見つけて、こっぴどく怒られたクラスもあった。高校時代の成績は中の中ぐらいで、古典や漢文は、よくさぼった。新潟高校の三年間は一言で言えば、浮雲の様な学校生活であった。

(草稿)



六. 大学

東京農業大学農学部農業工学科（以下「農大」と言う）に入学した。新潟の大学へ行くつもりはなく、東京の大学ならどこでも良かった。とにかく親から離れて暮らしたかった。日本中、世界中の人が集まる東京へ行きたかった。

一年生は、農林年金学生寮（新宿区西落合三の二十六の十五）にお世話になった。朝晩の食事は学生寮の食堂で調達できるので、とても助かった。ただし、農大までの通学時間は一時間を要した。バスでＪＲ中野駅まで行き中央線に乗って新宿駅で下車、小田急線に乗り換えて経堂駅で下車して約十五分歩いた。

学生寮は二人一部屋で、私の部屋は一階の隅っこにあった。千葉大学の一年生と一緒に、彼は競走馬ハイセイコーで有名な北海道の新冠村出身であった。煙草の好みはショートホープで、大人っぽい雰囲気があり、ひよとすると一浪していたのかも知れない。そして隣部屋の寮生と顔見知りになった。一人は二浪して早稲田大学法学部に入学した福岡県北九州市博多出身の二十歳で、もう一人は栃木県宇都宮市出身の十八歳で、大学名は覚えていない。野球の江川卓と歌手の森昌子の冗談話が得意であった。食堂の夕食は夜八時終了だった。土曜日の夜は、夜八時を過ぎて帰ると、私の部屋は煙草の煙が立ち込める雀荘に変わっていた。隣の部屋二人と他六人の二卓で徹夜麻雀であった。私は麻雀はやらないので、いつも隣部屋で過ごした。更に、十一時の門限を過ぎるとコンパ等で遅刻した寮生が度々窓をノックした。私の部屋は真夜中の玄関であった。一階の隅っこ部屋は、夜の雀荘と玄関の役割を、代々受け継いできた。学生寮には一年間お世話になって、農大に近い学生アパートの三畳部屋に引っ越した。

入学した週にフォークダンス同好会に入会した。勧誘して下さった先輩の印象が良かったからである（写真の十五と十六）。東京都内の大学が集まるフォークダンスパーティーが、各大学で夏と秋の日曜日に毎週開催された。例えば、法政大学のパーティーでは、都内の十二の大学が参加した（写真の二十）。パーティーでは百曲以上の踊りがあり、新入生の私は足下ばかり見ていた。写真のダンスはアメリカ民謡のオクラホマミキサーである（写真の十七）。ステッブが分からなくなると、近くの踊りがうまそうな人を見て、ものまねで踊った。写真のパートナーは笑顔が可愛い東京女子体育大学の二年生で、ダンスはオーストリアのチロルのレントラーである（写真の十八）。農大のパーティーは六月と十一月に開催した（写真の十八と十九）。私は三年生の時に、農大十一月パーティーで、赤い袴を着て大根おどりの応援団長をしたことがあった（写真の二十六）。皆は褒めてくれたが、身体が硬くて所作が格好悪く、イマイチだった。日頃の活動としては、毎週三日だけ、例会と称する踊りの練習があった（写真の二十一）。午後六時から八時頃まで、たっぷり汗をかいて踊りまくった。例会終了後に、皆と一緒に歓談しながら夕食を摂った。飲み会等で夜遅くなる時は、学生寮に帰らず、先輩の下宿先に泊めてもらったこともあった。合宿は、春の新生歓迎合宿（写真の十五と十六）、夏の合宿（写真の二十二と二十三）と、年二回あった。合宿先は、農大の厚木農場や関東近辺の観光地で、観光地では体育館施設を備えた安い料金の民宿等を利用した。また、四月に新生歓迎フェスティバルのサークル紹介プログラムで、ギリシアの民族舞踏ゾルバをTポジションで披露した（写真の二十四）。写真の左から二人目の茶色の

コスチュームの女性と右から二人目の緑色のコスチュームの女性は、東京女子大学から応援に来ていただいた人である。農大は八大学フォークダンス連盟に所属していたので、助っ人を呼ぶことができた。この連盟は、工学院大学、東京家政大学、東京女子大学、東京女子体育大学、東京農業大学、法政大学、明治大学、立正大学で構成していた。また、ゾルバは、映画「その男ゾルバ」のラストシーンでアンソニークインが踊って、世界中に広まった映画音楽である。十一月の収穫祭前夜祭でも、日頃の活動の成果を披露した(写真の二十五)。三年生の時には、ラウンドダンスの社会人サークルにしばらく通った。ラウンドダンスはアメリカ生まれの楽しいダンスで、音楽、ダンサー、キューアーからなり、ダンサーはキューアの発するキューイングにあわせ、男女二人一組(または女性同士)が大きな輪になって踊るダンスである。カーペンターズのトップオブザワールド等のヒット曲やラテンミュージック等のポピュラー音楽と豊富なステップ、そしてカップルダンスの一体感が格好良かった。フォークダンスパーティーで、ラウンドダンスの衣装を着て踊りを楽しんだことがあった(写真の二十七)。しかし、ラウンドダンスはフォークダンスに比べて難しく、途中でギブアップしてしまった。

三年生の夏休みに西表島へ五泊六日の一人旅をした。同好会の一年上の先輩の紹介で、行くことを決めた。先輩は風来坊な性格の女性であった。なにしろ、夏休みにサモアにいる先輩を頼って一人旅してきた人である。彼女が「自分のお下がり」と言って、私に白いジーパンを餞別してくれた(写真の三十)。股下の寸法がちょうどよかったのは不思議である。そして、夕方六時に晴海埠頭

を出帆する船まで、わざわざ見送りに来てくれた。私を実の弟の様に思ってくれた。写真中で私の隣にいるのは、大阪から姉妹で西表島の民宿に来ていた人である。私のことを、三人の子持ちの伯父さんと思っていたらしい。私は随分と老けて見られていた。人見知りで無口のせいだったかも知れない。さすが関西の大阪人で、大阪弁で調子よく私に声をかけてくれた。帰るころには私も大阪弁混じりの妙なイントネーションでしゃべっていた。ちなみに、私のニックネームは「カーサン」であった。尚、写真の二十八から三十は、彼女が後日送って下さったものである。彼女の妹が、渋谷の日本赤十字医療センターで働いていたことから、一度、農大付近で待ち合わせて、私の行きつけのスナックで二人で飲んだことがあった。彼女は丸顔のロングヘアで笑顔が可愛い人であった。西表島に着いて三日目に台風が来た。パイナップルの木が土下座する様な猛烈な台風であった。一日中民宿に閉じこもってトランプをしたり、雑談をしたりして過ごした。民宿の玄関付近は鉄筋コンクリート造りであったことから、宿の皆が玄関ホールに集まって、いわゆる雑魚寝状態であった。食事はカップラーメンで、他には八重山焼酎と沖縄のタバコを民宿で買うことができた。台風が去った後は、パイナップル工場が全壊して、パイナップルが無料で配られた。屋根が吹き飛ばされた民宿もたくさんあった。海の中は白濁して、綺麗な海底を見ることができなかった。台風が来る前日までに、星砂の浜や遠浅の海と珊瑚礁、シュノーケルと水中眼鏡で潜ると近づいてくるカラフルな熱帯魚、水田近くの草地で休んでいる水牛の群れ、夜に道路を横断するサキシマハブやヤシガニ等を見て、丸一日観光する時間があつたので運が良かった。

農大のクラスメートの友人は梶くんであった(写真の三十一)。彼は、農林年金学生寮から学生アパートの三畳部屋(世田谷区桜三丁目六の十六 堀江方)への引っ越しを手伝ってくれた。彼の家は農家で神奈川県横浜市にある。自宅の軽トラックを使って私の引っ越し荷物を運搬してくれたので、大変助かった。農大在学中に、彼の家に泊まったこともあった。彼の部屋は納屋の二階にあった。部屋の壁は防音と音響効果が高まる特殊な板が貼っており、オーディオ製品があふれていた。母屋で朝食をこちそうになったが、もぎたてのトマトやキウリと自家製の味噌がとてもおいしかった。二年生の夏休みに、彼は新潟に遊びに来た。佐渡島に渡り、私はオレンジ色のヤマハFX50の原付バイクで、彼はカワサキのマッハ350SSで一泊二日のツーリングをした。小佐渡を一周して、民宿には泊まらずに、浜辺に近いキャンプ場のバンガローで一泊した。朝食は漁師町の裏通りにある露店のおばあちゃんから、割り箸で刺して炭火で焼いた一夜干しイカを、一杯百円で買って食べた。とても美味であった。卒業後、彼は中学校の教師の道を選んだ。卒業してしばらくは年賀状のやり取りをしていたが、今はどうしているか分からない。

フォークダンス同好会の同世代の友達は四人で、木暮、菅田、鈴村(写真の三十二)、南沢(写真の三十三)である。一年生から入会したのが私、木暮、菅田、南沢で鈴村は三年生からである。また、南沢は二年制短期大学であった。木暮は群馬県前橋市出身で、世田谷区岡本の学生アパートに住んで居た。砧公園を通り抜けるコースで自転車通学であった。「何々で、……どう思う？」と笑いながら話しかけてくる癖があった。自分の意見を言う前に、人がどう思う

のか、いつも気になっている、相手の考えや気持ちを気にするような会話が多かった。夏休みになると、フラリと一人旅に出て、音信不通になることが度々あった。態度がフワフワしていて、風来坊な印象が強かった。私にとって、どちらかというと苦手なタイプの人間であった。逆に彼から見たら、私は短気でせっかちな人間に見えたかもしれない。彼は、卒業して、しばらく旅をした後に地元前橋市のゴルフ場に就職した。

菅田は茨城県北相馬郡利根町出身で、二年生までは自宅から二時間かけて通学していた。三年生から世田谷区桜丘の学生アパートに住むようになった。フオークダンス同好会の指導（踊りのリーダー）という立場になったからであった。「何々で、……だっペヨウ！」と笑いながら話しかけてくる癖があった。茨城弁丸出しで、性格は真直ぐな人間であった。新宿のディスコへ二人で行ったことがあった。ダンスホールで踊っている客の種類は、高校生や大学生ではなく、ネクタイにスーツのいわゆるサラリーマン風と、ブラウスにスカートのいわゆるオフィスレディ風の社会人が大半であった。料金は思ったより高かった。マイケルジャクソンのムーンウォークの様なカッコいいステップは出来ないので、二人でロシアのコサックダンス風のしゃがんだ状態で跳ねながら、足を入れ替えたりするようなフオークダンスを踊った。閉店の午前二時頃まで踊って、酔っぱらって、どこで寝ようかと相談していたら、サラリーマン風の人から、家が近くにあるので、始発の電車まで泊まっていざと言われ、その人のアパートに行って、雑魚寝させてもらった。目が覚めたら、ネグリジェを着た女の人が居て、びっくり仰天し、泊めてもらった御礼もソコソコに新宿駅へ

逃げるように駆けた。途中の地下街への入り口で、若い男数人が、隠れるように壁にもたれて紙袋を口にあてているのが見えた。その男たちと目が合った瞬間に、テレビのニュースで観たシンナー中毒の映像を思い出した。私たちは驚いて、その場から立ち去った。彼は指導になってから、中野サンプラザのチェーンダンスサークルに通ってバルカンダンスに挑戦した。このサークルのバルカンダンスはステージに上がって観客に見せるダンスを追及していた。私は、彼と一緒に数回、通ったことがあった。しかし、身体が硬くて、柔軟な動作が不得意な私には、バルカンダンスのきめ細かい動きが難しく、途中でギブアップしてしまった。彼は、卒業して、地元の利根町役場に就職した。そして、新潟県村上市出身のスチュワードと結婚した。その後、彼が村上市からの帰りに私の下宿に泊まったり、私が東京出張時に上野駅の食堂で旧交を温めたことがあった。

鈴村は神奈川県相模原市出身で、三年生からフォークダンスを踊り始めた。私と一緒にラウンドダンスの社会人サークルに通った。彼は、ダンサーとキューアの両方のセンスを持ち、上達も早く、ラウンドダンスにのめり込んでいた。彼は、人との会話が好きで、誰にでも好かれるタイプの人間であった。そして、卒業して、しばらくしてからダンススクールを始めた。私が東京出張時に、彼のアパートに泊めてもらったことがあった。遅い夕食を廻る寿司で食べたことを、今でもハッキリと覚えている。また、私の結婚式の時に、友人代表でスピーチをしてもらった。私が結婚して佐渡支部に勤務していた時に、彼のダンススクールの生徒と一緒に、佐渡観光に来たことがあった。私は一日休み

を取って、佐渡の観光名所を案内し、アースセレブレーションの鼓童のコンサートと一緒に聴いた。彼は、三十九歳の時にダンス仲間の女性と結婚した。私は結婚式に出席した次の日の日曜日に帰省したが、月曜日は休みを取っていた。ところが、月曜日にオーム真理教の地下鉄サリン事件が起こって日本中が大騒ぎになった。翌日、職場の人が、私がサリン事件に巻き込まれたのではないかと心配してくださったと聞き、職場に電話をかけておけばよかったと悔やんだ。

南沢は、長野県上伊那郡中川村の出身で、二年間の短いつきあいであった。

彼は、菅田と同じくチェンダンスのバルカンダンス等に興味を持っていた様である。あの独特なリズムとステップが、身体の柔らかい、足腰の強い、彼が踊ると、とてもカッコよかった。例会で夜遅くなった時に、彼の下宿に何度か泊めてもらったことがあった。ラジカセから、中島みゆきの「アザミ嬢のララバイ」が流れ、暗い歌が好きなんだな、と彼に言ったら、「とても好きな歌手だ」と答えが返ってきた。私は、「ジャニスイアンのラブ・イズ・ブラインドが好きだ」と言った。美味しいコーヒーをごちそうになった。また、長野の実家から送られてきたので、食べると出されたのが、蜂の子、バッタの佃煮であった。蜂の子はウジ虫のようでモゾモゾと動いていた。爪楊枝に刺して手渡しされたが、私には、どうしても食べられなかった。彼の口癖は「おまえな……何々だろう」である。彼は意外と理屈っぽい、筋を通すタイプの人間であった。中村くん（写真の三十四）は、農業工学科の一年後輩で、石川県羽咋郡志雄町の出身、まじめで心優しい人間であった。私がパチンコ通いで、食費が欠乏した時に、彼から米を貰って助かった事が何回もあった。私の学生アパートか

ら近い場所に彼の下宿があるので、時々古くなったエロ本をお土産に彼のアパートに泊まりに行った。朝食は、いつも「日清のどん兵衛きつねうどん」であった。また、月一回親から生活費を仕送りして貰った後に、よく、行きつけのスナックで、彼と、彼の彼女等と飲みに行った事があった。今と違ってカラオケは無く、ジュークボックスで好きな音楽を聞いて、踊ったりして楽しんだ。ジュークボックスは百円で四曲演奏を聴くことができた。卒業後、私が農村環境整備センターに出向して、石川県の仕事があった時に、彼の実家に一晚、お世話になったことがあった。彼の愛妻は同好会の同輩で、若くして白血病で他界していた。私も、彼女にいろいろとお世話になり、たくさん思い出があったので、一度、お参りがしたかった。彼女の話をするたびに、彼の眼に涙がふれていたことが、今でも忘れられない。

川添さん（写真の三十四）は、事務職として農大に勤務されて、同好会の顧問をしてくださった恩人です。農大厚木農場で毎年行われる新入生歓迎合宿の打ち上げや、農大の体育館で毎年開催するフォークダンスパーティー等に来てくださり、いつも私たちを優しく見守ってくださいました。踊りの輪の中に入って、マイムマイムを軽快に踊っていた川添さんを思い出します。また、私の結婚式に農大の恩師として出席してくださり、祝福してくださったことは、忘れることができません。その後、私が農村環境整備センターに出向して東京に住んで居た時に、同好会は廃部となっていました。OB OG会開催を企画したところ、川添さんは快く、ご自宅に私たちを歓迎してくださいました（写真の三十五、三十七）。今は、川添さんへの感謝の気持ちでいっぱいです。

卒業して、OB OG会親睦旅行（写真の三十八〜四十一）を企画した。舞台は、長野県である。一泊目は木暮の伯父さんの軽井沢の別荘、二泊目は南沢の実家（写真の四十）で、長野県の観光名所を訪ね、親睦を深めるのである。メンバーは加藤、木暮（一泊目のみ参加）、菅田、鈴木、南沢（二泊目からの参加）、そして特別参加のH先輩である。

実は、この旅行の前日に、私はH先輩の長野の親戚の家に一泊した。諏訪湖の花火大会に参加し、馬刺しをたらふく御馳走になった。打ち上げ花火の合間に、見学者が自分のロケット花火を「玉屋〜」と言つて、発射することから、「花火大会に参加」と表現した。お肉屋さんで馬刺しがキログラム単位で売られていたのでビックリした。色々な薬味が用意されていて、本当に美味しかった。次の日に、父から借りた車、ホンダアコードで、H先輩を乗せて軽井沢の別荘へ向かった。夕方に、南沢を除く皆が集合し、親睦旅行がスタートした。木暮の車はホンダプレリウド、鈴村の車（菅田が同乗）は三菱ミラージュであった。軽井沢の白糸の滝、浅間高原の照月湖（写真の三十八）、小諸市の島崎藤村記念館等々……、群馬県の草津白根山の湯釜（写真の四十一）で、皆と別れた。本当に楽しい旅行であった。

農大の四年間の学生生活では、たくさんの楽しい思い出と、たくさんの心残り、たくさんの後悔を経験した。社会人になる助走期間として、かけがえない時間を過ごすことが出来た。生活費や学費を惜しみなく出してくれた両親に、感謝の気持ちをきちんと伝えていなかったことを、今になって、とても後悔している。



(草稿)



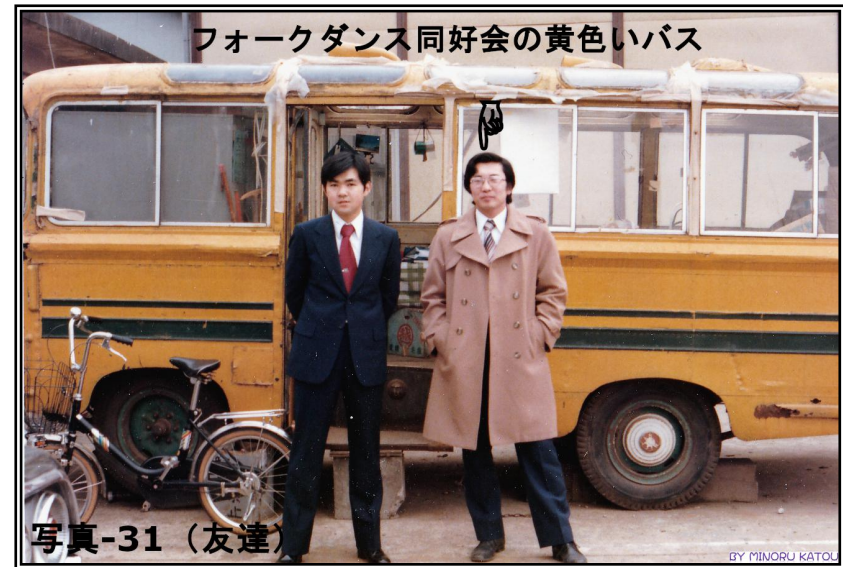
(草稿)





(草稿)







(草稿)



(草稿)

七・新潟県土地改良事業団体連合会の辞令

一九七九年	昭和五十四年四月一日	事業部設計第二課技師（九万五百円）
一九七九年	昭和五十四年十月一日	事業部技術課技術係技師
一九八〇年	昭和五十五年四月一日	事業部技術課技師（九万七千五百円）
一九八一年	昭和五十六年一月一日	同右（十万六千九百円）
一九八一年	昭和五十六年四月～昭和五十七年三月	農業土木試験場へ派遣
一九八二年	昭和五十七年一月一日	事業部技術課技師（十一万八千八百円）
一九八二年	昭和五十七年十月一日	同右（十二万四千五百円）
一九八三年	昭和五十八年十月一日	同右（写真四十二）（十二万九千二百円）
一九八四年	昭和五十九年十月一日	同右（写真四十三）（十三万六千六百円）
一九八五年	昭和六十年十月一日	同右（十四万六千円）
一九八六年	昭和六十一年一月一日	同右（十五万九千七百円）
一九八六年	昭和六十一年十月一日	同右（十六万六千六百円）
一九八七年	昭和六十二年四月一日	事業部電算室技師
一九八七年	昭和六十二年十月一日	同右（十七万七千四百円）
一九八八年	昭和六十三年十月一日	同右（十八万六千九百円）
一九八九年	昭和六十四年一月一日	同右（十九万五千六百円）
一九八九年	平成元年十月一日	同右（二十万三千九百円）
一九九〇年	平成二年四月一日	事業部佐渡支部技師
一九九〇年	平成二年十月一日	同右（二十一万九千百円）
一九九一年	平成三年四月一日	技術部佐渡支部技師

(草稿)

一九九一年	平成	三年十月一日	同右	(二十三万五千六百円)
一九九二年	平成	四年四月一日	技術部設計第三課主査	
一九九二年	平成	四年十月一日	同右	(二十五万三千九百円)
一九九三年	平成	五年七月一日	同右	(二十六万九千二百円)
一九九四年	平成	六年四月一日	同右	(二十八万二千八百円)
一九九四年	平成	六年十月一日	同右	(二十八万五千円)
一九九五年	平成	七年一月一日	同右	(二十九万七千二百円)
一九九五年	平成	七年四月一日	技術部設計第三課係長	
一九九五年	平成	七年四月一日	同右	(三十万五千五百円)
一九九六年	平成	八年四月一日	同右	(三十二万五千五百円)
一九九七年	平成	九年四月一日	同右	(三十四万五千円)
一九九八年	平成	十年四月一日	同右	(三十五万五千二百円)
一九九八年	平成	十年十月一日	同右	(三十八万二千円)
一九九九年	平成	十一年四月一日	技術部設計第二課係長	
一九九九年	平成	十一年四月一日	同右	(三十九万二千九百円)
二〇〇〇年	平成	十二年四月一日	社団法人 農村環境整備センターへ派遣	
二〇〇〇年	平成	十二年四月一日	同右	(四十万円)
二〇〇二年	平成	十四年四月一日	同右 (技術部主幹)	
二〇〇二年	平成	十四年四月一日	同右	(四十万八千七百円)
二〇〇二年	平成	十四年十月一日	同右	(四十一万二千三百円)
二〇〇三年	平成	十五年四月一日	技術部設計第四課長	

(草稿)

二〇〇三年	平成十五年十月一日	同右	(四十万七千六百円)
二〇〇四年	平成十六年十月一日	同右	(四十万六千五百円)
二〇〇五年	平成十七年十月一日	同右	(四十万九千九百円)
二〇〇六年	平成十八年四月一日	技術部情報課長	
二〇〇六年	平成十八年四月一日	同右	(三十九万七百円)
二〇〇七年	平成十九年一月一日	同右	(三十九万二千八百円)
二〇〇八年	平成二十年一月一日	同右	(三十九万五千四百円)
二〇〇八年	平成二十年四月一日	計画部情報課長	
二〇〇九年	平成二十一年一月一日	同右	(三十九万七千三百円)
二〇〇九年	平成二十一年一月一日	同右	(三十九万七千三百円)
二〇〇九年	平成二十一年四月一日	同右	(四十一万一千四百円)
二〇一〇年	平成二十二年一月一日	同右	(四十一万二千八百円)
二〇一一年	平成二十三年一月一日	同右	(四十一万六千四百円)
二〇一一年	平成二十三年四月一日	技術部情報課長・水土里情報センター長	
二〇一一年	平成二十三年四月一日	同右	(四十一万六千九百円)
二〇一二年	平成二十四年一月一日	同右	(四十一万八千九百円)
二〇一三年	平成二十五年一月一日	同右	(四十二万一百円)
二〇一三年	平成二十五年四月一日	同右	(四十二万八百円)
二〇一四年	平成二十六年一月一日	同右	(四十二万二千円)
二〇一五年	平成二十七年一月一日	同右	(四十二万三千四百円)
二〇一六年	平成二十八年一月一日	同右	(四十万七千六百円)

(草稿)



二〇一八年	平成三十年三月三十一日	退職	
二〇一七年	平成二十九年四月一日	同右	(二十八万五千円)
二〇一七年	平成二十九年四月一日	嘱託員・技術部情報課専門指導員	
二〇一七年	平成二十九年三月三十一日	定年退職	
二〇一七年	平成二十九年一月一日	同右	(四十万九千円)

八．筑波研究学園都市（農業土木試験場（二十三歳））

農林水産省構造改善局建設部設計課による昭和五十六年度（第一回）技術管理システム化研修（上級コース）を受講した。研修期間は四月〇〇日から七月二十四日までの三ヶ月間、研修場所は茨城県つくば市観音台二の一の六の農業土木試験場（現在の農研機構 農村工学研究部門）、研修内容はコンピューターによる数値解析手法であった。自分で用意したモデル地区について、フォートラン言語による基本プログラムを改変し、テーマに沿って数値解析を行い、報告書を作成し、成果を発表するという工程である。受講者は十名で、私の他に、東北、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、九州の農政局組織から七名、石川県農林水産部耕地建設課から一名、宮崎県土地改良事業団体連合会（以降「宮崎県土連」と言う）から一名であった。二人一部屋の研修生宿泊棟で寝泊りし、別棟の食堂で朝、昼、晩の食事を摂った（写真の四十四）。私は、宮崎県土連の西原博さんと一緒に部屋であった。研修期間前半は、農業土木等に関する講義や視察等が行われた。最初の一ヶ月は、修学旅行気分で酒盛りをしたり、筑波研究学園都市や筑波大学のイベントに行ったり、土浦市に買い物に出かけたりして、楽しい時間を過ごすことが出来た。次の一ヶ月は、夕食後に、プログラムのフローチャート作成やプログラムステートメントの作成等を行った。プログラム作成媒体が紙テープで、紙テープリーダーの調子が悪いと途中で切れる事があり、基本プログラム改変によるバグ修正に多くの時間を費やした。最後の一ヶ月は、モデル地区のシミュレーション結果の検証作業とプログラム修正に多くの時間を費やした。受講者十名は、夕食の後、廊下が暗くなった農業

土木試験場で、夜遅くまで交代してコンピューター操作をおこなった。私は、県営ほ場整備事業猿沢地区をモデルとして、水田パイプラインの非定常流況解析を行い、水田パイプラインにおける設計上の留意点についてとりまとめた。

上級コースの研修が終了した後は、昭和五十七年三月末まで、農業土木試験場水利第三研究室の白石英彦室長（以降「白石さん」と言う）と、同じく施設水利第二研究室の岩崎和巳室長（以降「岩崎さん」と言う）にお世話になった。室長から助言を受けながら、西原さんは水利第三研究室で主に排水路等の数値解析業務に、私は施設水利第二研究室で主に農業用水路等の数値解析業務に携わった。研究室では研修業務の他に、構造改善局の設計基準等に関わる執筆依頼、補助事業や国営または県営事業所等の調査検討業務の仕事があった。給料等は出向元の県土連から支払われたが、私と西原さんは、いわゆる研究室の徒弟の様な立場であった。そして、宿泊場所は、引き続き研修生宿泊棟であった。宿泊棟と食堂と研究室の狭い範囲を往復する毎日であったが、唯一の楽しみは、つくば市の有名なトンカツ専門店や中華料理店のうまい料理を腹いっぱい夕食で食べる事であった。西原さんは、愛車の日産ローレル（ディーゼルエンジン車）を運転して、九州宮崎県から来ていた。私は車が無かったので、彼の愛車に度々乗せてもらった。しかし、年が明けてからは、夕食後も研究室に戻って夜遅くまで仕事をするようになった。室長に「帰ってもいいよ」と言われるまで、なかなか帰ることは出来なかった。出向元からは、出張扱いであったので宿泊費等の手当は出たが、超過勤務手当は貰えなかった。徒弟の立場では、しやうがないと割り切って仕事をした。夜遅くまで仕事をする日々が続いた。

月に二回くらい、天気の良い土曜日の午後から、白石さんの趣味である硬式テニスの誘いがあったので、テニスラケットを買った。西原さんはテニスがとてもうまかったが、私はどちらかというと下手であった。テニスで汗を流した後に、白石さんの愛車で彼の自宅に招かれて、冷たいビールを御馳走になった。帰りは、奥さんか息子さんが車で研修生宿泊棟まで送ってくださることが多かった。私たちは白石さん一家の心配りに、たいへん感激した。だから、どんなに仕事が忙しくても、テニスと冷たいビールの誘いを断る事は無かった。

独立行政法人国際協力機構 (JICA / 以下「ジャイカ」と言う) の研修生として、ヤップさんが研究室にやって来た (写真の四十五)。研修期間は、約一ヶ月であった。彼はマレーシアの技術者で、農業用水路等のコンピューター数値解析の習得が目的であった。私は岩崎さんの徒弟であったことから、ヤップさんと兄弟の様に机を並べて助言を受けた。岩崎さんは英会話が堪能で、ヤップさんとの打合せは、いつも英語であった。私は、英和辞典を片手に、単語を懸命に調べながら、打ち合わせに臨んだが、何を言っているのか分からないところでは、岩崎さんから日本語で説明してもらった (英会話は初めてであった)。

白石さんの研究室のメンバーとヤップさんと私 (たぶん?) で、日光東照宮へ日帰り旅行をした (写真の四十六)。白石さんのカラーラクーペと研究室に転勤して来た田中さんのクラウンに分乗した日帰り旅行であった。

同じ研究室の丹治肇研究員の企画で、ヤップさんを伴って、東京大学周辺(?) で合コンをした (写真の四十七)。四人の女性が、どこの誰だったのかは記憶にない。彼女達の一番の興味はヤップさんであった。ところが、ヤップさんは

フランスに恋人が居ることを、夢中で女性たちに告白してしまったようである。英会話だったので、一言一句正確には分からなかったが、女性たちの表情を見て確信した。結局、皆がローテンションのまま数時間あまり談笑して別れた。

白石さんと岩崎さんの研究室では、新しい職員が来ると、よく小舞台付きのお座敷で宴会を開いた。宴たけなわになると、カラオケの一番バッターとして、私は十八番の「すごい男の歌」と「YMCA」を歌った(写真の四十八)。後ろには若いサポーターが拍手をして応援してくれた。いつも二番バッターは、サポーターの中の誰かであった。ヤップさんが何を歌ったかは覚えていない。

岩崎さんは、平日は、つくば市の官舎で寝泊りしていた。彼はヘビースモーカーで、官舎と愛車カロラの灰皿からは、煙草の香りがいつも漂っていた。残業して遅い夕食と一緒に食べた夜は、彼の官舎に泊めてもらうことがあった。ある日、朝起きると小太りの可愛い奥さんが居てビックリした。奥さんは数週間にも一回、掃除洗濯と朝食の作り置きに来ていた。彼は小田急線の新百合ヶ丘駅(たぶん?)に自宅があった。自宅へ帰る土曜日は、カロラのキーを私に貸してくださることが多く、キーを借りた夜は土浦市方面へ夜遊びに出かけた。

ヤップさんと私が、岩崎さんの自宅に招待されたことがあった。土曜日の午後から、私は片言の英語を駆使してヤップさんと新百合ヶ丘まで出かけた。途中、新宿のデパートで手土産を買い、ヤップさんのショッピングに付き合った。彼の母国マレーシアでは、買い物で値切るのは当然の事であった。彼は家電量販店でもデパートでも、値段が高いと言って、その場で店員をつかまえて値切り交渉を始めた。私は店員と彼の間にあって、ジェスチャーを交えて片言英語

の「CANNOT (キャンノット)」を連発して、なんとか彼を説得した。

白石さん、岩崎さん、大西亮一さん（水利第三研究室）、ヤップさん、西原さんのメンバー（たぶん？）で、山梨へ一泊二日の出張をした時のことである。温泉旅館に泊まって、夕食の後に、ほろ酔い気分で、白石さんの号令のもと、なんと、皆でストリップ劇場に出かけた。ちらほらと煙草の煙が立ち上る薄暗い客席の中で、私たちは、かぶりつきに陣取った。しばらくすると、ステージからお客に呼びがかかった。すかさず、隣の白石さんから「加藤さん、手伝ってきなさい」と言われた。私は戸惑いながらも、ステージに上がってしまった。ひざまずいた途端、化粧の濃いはだけた着物姿の美人（？）に、手を引つ張られて、彼女のアソコ付近に導かれた。彼女は何度も私の手を引っ張る様に振り回して、激しく喘ぐポーズをした。しかし、私は手を握られただけで、彼女の身体には指一本触れていなかった……。私は呆氣にとられた。結局、私はスポットライトを浴びて、妖艶な主役の助演をただけであった。

ヤップさんが帰国した後に、ジャイカの研修生として中国人が研究室にやって来た。研修期間は約一ヶ月であったが、英語だけでなく日本語を話せる人がきていたので、打ち合わせはスムーズであった。しかし、四十から五十歳代くらいの年輩の人ばかりで、仕事以外のプライベートな話は一切なかった。旧正月（春節）のお祝いに研修生宿泊棟の部屋に招待されたことがあった。五人の年輩の男性が「にこにこ」と微笑んで歓迎してくださった。日本語が得意な人と話をしたが、彼らは質問ばかりで、自分達のことはあまり話さなかった。

年度末で忙しくなると、マイカーが無いとなにかと不便であった。十一月か

ら三月までは、海が荒れて釣りができなくなることから、父は、愛車ホンダアコードハッチバックを私に貸してくれた。ちょうど十月末に、岩崎さんと新潟県巻農地事務所に出張した。幹線水路西川の下流水位一定制御方式取水ゲート検討業務報告書の納品であった。往きはＪＲ上越線で、帰りはアコードに乗り（岩崎さんにも交代で運転していただいて）、福島県経由でつくば市に戻った。つくば市は新潟と違って、冬は空っ風が吹く日が多く、車も洗車要らずの天気が長く続いた。私は二十二才になってから運転免許を取得したので、初心者マークがとれて間もないドライバーであった。休日は、茨城県内の交通事情に慣れるため、運転の練習を兼ねて、西原さんと一緒に、霞ヶ浦方面へ出かけた。

十二月に出向元の先輩の結婚式があったので、土曜日の午後にはアコードで新潟に向かった。陽が沈み真っ暗になった時分に、国道十七号線の三国トンネルにさしかかった。新潟県側に出た途端、道路に積雪があつて渋滞していた。前の車はスバルの四輪駆動車で急停車したが、私のアコードはノーマルタイヤでスリップし、スバルの後部に勢いよく衝突してしまった。私が、呆然としてみると、スバルの運転席のドアが開いて、鬼のような顔をした年配の男が近寄ってきた。彼は東京電力の下請け企業の営業マンで、ちょうど南魚沼市の会社に戻るところであった。数ヶ月前にトラックに追突されて、むち打ち症を患っていたところに、私が追突したらしい。私は外に出て、平身低頭して謝ったが、彼はアコードの車検証を見せろと大声で怒鳴った。スバルの後部バンパーが大きく凹んでいたことから、自動車整備工場に点検に出すと言われた。彼と連絡先を交換して、車検証を見せて別れた。新潟方面は積雪で道路が凍結している恐

れがあることから、群馬県高崎市まで戻って、国道沿いのモーターに泊まった。結局、先輩の結婚式には出席できなかった。アコードはバンパーが凹み、ボンネットが膨らんでいたのも、新潟の父と相談して、つくば市ではなく高崎市内の自動車整備工場で修理することにした。その日のうちに、JRで高崎から南魚沼市の彼の家を訪ねて、事故について謝罪し、示談で済ませてもらうようにお願いした。約一ヶ月間、毎週日曜日、JRで南魚沼市へ通った。通院費用や営業車の修理と代車の費用で、支払った金額は三十万円ほどであった。最後に彼は、請求書と領収書のコピーだけでなく手土産まで私にくださった。そして、アコードの修理代金は、父が出してくれた。運転免許を取得して間もない交通事故であった。「時間に余裕をもって、焦らずに、ゆっくり走ろう」という運転マナーがいかに重要かということを、身にしみて感じた苦い経験であった。

宮崎県土連の西原さんとは、三月末に帰省するまで寝食を共にした。九月頃であったと思うが、研修生宿泊棟が利用できない期間があり、常磐自動車道の橋を渡って直ぐの一軒家に、約一ヶ月間住んだことがあった。朝になると、カーテンが無い東向きの窓から朝陽が射し込んできて、暑くて眠れなかった。ふとんをずらしても、窓に別の部屋の障子戸を立て掛けても、部屋の奥まで朝陽が射すので、いつも目覚まし時計が鳴る前に起きた。風呂はあったが、シャワーで済ませた。食事は外で済ましてくるので、夜、寝に帰るだけの宿であった。西原さんは口数の少ない温厚な人で、年齢が私より一つ上であった。宮崎の実家から送られてきた霧島ワンカップを頂いたが、とても美味しい焼酎であった。新潟では酒と言えば日本酒であるが、宮崎では焼酎である。互いの風土と食文

化の違いに、ちょっと驚いた。彼は私と同じくらい酒とタバコをやる人なので、共同生活はお互いに気を使うこともなく、気楽に過ごすことができた。

三月に、白石さんと岩崎さんの研究室が、西原さんと私のために泊りがけの送別会を開いてくださった。会場は、千葉県の房総半島にある民宿であった。ひと風呂浴びた後に、十六畳ほどの部屋で乾杯した。旬の地魚舟盛り等の御馳走がテーブルいっぱいになべられ、ビールや酒を談笑しながら飲み交わした(写真の四十九)。私の両側には仕事を手伝っていただいた(名前が思い出せない)女性が座り、お酌をしてくださった。写真の手前が白石さん、一番奥が田中さんである。写真を撮ってくださったのは丹治さんである。向かい側に私がお世話になった岩崎さんの研究室のメンバーが着席した。残念ながら岩崎さんは出張があつたので、途中から参加した。皆が機嫌よく酔っぱらって、席を離れて談笑する頃からカラオケが始まり、日頃は歌わない岩崎さんや大西さんがムード歌謡曲を歌いだした。「加藤さん、美女たちと別れのダンスを踊りなさい」と号令がかかったので、西原さんと私は着物の帯を締めなおして、美女のお姉さん達とダンスを踊った。その後で皆でおにぎりを食べて、女性たちは部屋へひきあげ、残った男たちは、宴会の部屋で寝た。二日目の朝は、いつもの時間に起きて朝食を食べ、九時ごろ民宿を後にした(写真の五十)。深酒して体調を崩した人は誰もいなかった。研究室のメンバーは仕事以外のことも、うまく立ち回ることができる賢い人間の集まりであつた。帰り道に、有名な菜の花畑や九十九里浜等に行き、ポカポカ陽気で暖かい房総半島の春を満喫した(写真の五十一)。田中さんのトヨタクラウンと西原さんの日産ローレルと私のホン

ダアコードの三台に分乗した(たぶん?)一泊二日の楽しい旅行であった。

研究室の隅っこに、8ビットパソコンがあった。グリーンディスプレイとキーボードとカセットテープドライブ、ペンプロッタープリンターで構成されていた。フォートラン言語に似たベーシック言語でプログラムを作成し、シミュレーションをすることが出来た。また、潜水艦ゲーム(駆逐艦から機雷を落下し潜水艦を沈没させるゲーム)等のソフトがあった。基本的な操作方法は、丹治さんが教えてくださった。富士通の大型コンピュータしか知らなかった私は、インターフェイスの楽なパソコンに夢中になった。暇な時間がある時は、研究室の隅っこでパソコン操作を楽しんだ。これを契機に、シャープのMZ-731、沖電気のif800モデル30、エプソンのPC-486SR、NECの9821Xa10、ソニーのVAIOノートPCG-Z505N/BP、東芝のダイナブックノートSSMX/190DR、同じくQOSmio(コスミオ)T750/T8ADと次々に買い替えて、現在はマウスコンピュータのノートパソコン1805MB-W880XN-M2SH2を使用している。朝起きて、ヤフーニュースを検索して、メールとスケジュールをチェックして、地デジやBSのテレビを観て、録画をして、スキヤニングや印刷、年賀状や文書の作成、デジカメ写真の整理……。結局、寝る直前までパソコン操作をしている事が多い。今では、パソコンは、私にとって生活必需品となった。

農業土木試験場における一年間は、コンピュータによる数値解析手法の習得だけでなく、いろいろな人との出会いがあり、社会人の心構えを学ぶ良い機会となった。今は、お世話になった人達への感謝の気持ちでいっぱいである。



写真-46 (水利第3研究室～日光東照宮へ旅行) BY MINORU KATOU



写真-44 (筑波研究学園都市) BY MINORU KATOU



写真-47 (ヤップさんと東京で合コン) BY MINORU KATOU

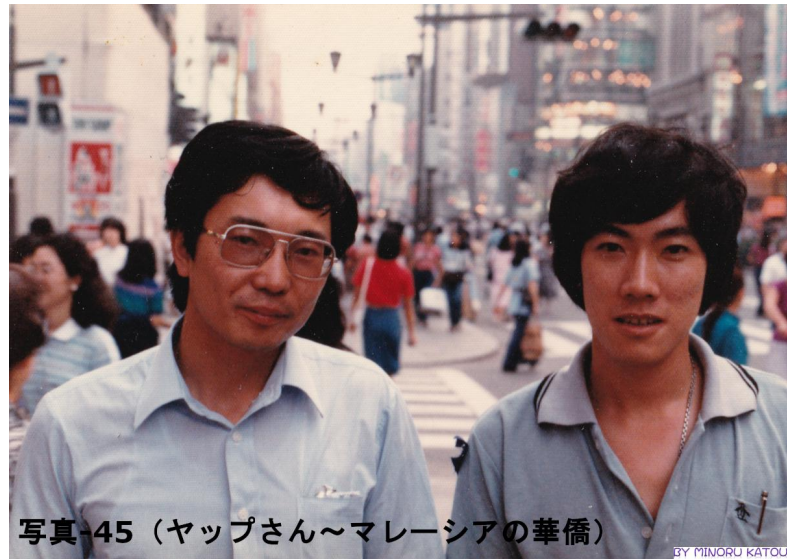


写真-45 (ヤップさん～マレーシアの華僑) BY MINORU KATOU



九・新潟県土地改良事業団体連合会のクラブ活動等

(体育系のクラブ)

スキー部(写真の五十三)。時々転倒するが、パラレルターンで滑走。
野球部(写真の五十四)。いつも補欠。エンタイトルツーベース一回。
テニス部。相手が上手でないとラリーが続かないレベル

ゴルフ部。十八ホールで百打のへたくそレベル。面白くないスポーツ。
ワンダーフォーゲル部(写真の五十五)。実体は登山部であった事から

一日だけ妙高山の登山に参加して、すぐ退部した。

(文化系のクラブ)

若者会(写真の五十二)。飲み会がメイン。結婚した時に退会した。

囲碁部。二段まで昇段。ただし、連合会以外の昇段戦経験は無し。



写真-52 (若者会～歓迎会)

BY MINORU KATOU



写真-53 (スキー部～蔵王)

BY MINORU KATOU



写真-55 (ワンダーフォーゲル部)

BY MINORU KATOU



写真-54 (野球部～北陸4県野球大会)

BY MINORU KATOU

十・結 婚

一九八六年 昭和六十一年九月二十一日に灰野晴美さんと結婚した。職場結婚である。結婚式の様子は、写真の五十六から写真の六十のとおりである。

三十五年の年月を経た二千二十一年九月二十一日現在、マンション住まいで、子供なし、猫一匹の夫婦生活が続いている。尚、詳しいことは、今は書かない。

(草稿)



(草稿)



十四・ 社団法人 農村環境整備センター（四十四〜四十六歳）

東京に転勤して、住んだ家は「太陽ビレッジ」というマンションであるが、実はアパートに近い構造であった。隣室や外の音がたびたび聞こえた。住所は、大田区中馬込三ノ九ノ三ノ二〇三号である。二月に日帰り出張で、妻と一緒に不動産屋のペット可の物件二か所を下見して、即決した住まいであった。

妻と猫一匹の家賃は、ひと月十二万円であった。しかし、農村環境整備センター（以下「センター」という）から、ひと月八万円の住宅手当が支給されたので、四万円で住むことができた。もちろん、交通費も支給された。太陽ビレッジは、「馬込」という地名のとおり、アップダウンの多い丘陵地の高位部の一面にあった。隣接して、東京都立大田桜台高等学校があり、坂道を南に約六十メートル下った所には東海道新幹線が丘陵を切断する様に通っていた。スーパーやコンビニ、自動販売機は近くに無いため、通勤の生き帰りに買い物をした。住んでみて分かったことだが、夜遅く缶ビールを買いに行く場合は、暗い夜道を往復三十分以上歩かなければならなかった。高位部の一面は、「暗い夜道は高級車に乗って買い物に出かける」セレブが住む街であった。

センターは、東京都港区芝四丁目十六ノ四の「ちくだんビル」にあった。通勤時間は三十分であった。家から十五分間、下り坂を歩いて都営浅草線の西馬込駅へ、始発の電車に乗って十分間で田町駅に着き、五分間歩いてセンターであった。地下鉄西馬込駅の上は、第三京浜道路（片側三車線の六車線道路）で、広い道路幅、走っている車の多さ、長い横断歩道、新潟のスケールとは大きく違っていた。ところが、一年後にセンターは中央区日本橋大伝馬町十一の八の

フジスタービル日本橋に引っ越したのである。都営浅草線の人形町駅から徒歩十五分の場所であった。ただし、地下鉄の乗車時間は三十分で通勤時間は一時間になった。一年前の不動産屋のペット可の物件に中央区のマンションがあったことを思い出し、情報不足を後悔した。まさに、後悔先に立たずである。

センターで担当した業務の一覧を表の一～三に示す。三年間で三十二地区の業務に携わった。

(草稿)

表-2 平成13年度業務(2001年4月～2002年3月)

地区名 所在地 事番一地区番	担当部次長	業務内容	金額 消費税抜き (千円単位)	工期
【豊明】 愛知県豊明市 94-9404	〇次長	農村振興基本計画に関する 助言・指導業務 委員会2回	3,276	H.14.03.15
【西讃南部】 香川県観音寺 41-4102	〇次長	県営 農道環境診断調査 その3業務 委員会2回	3,600	H.14.03.25
【大江川】 愛知県尾張一宮 21-2105	〇次長	県営地域用水環境整備事業 基本計画技術検討委員会業務 委員会1回	1,200	H.14.02.28
【福田新池】 愛知県三好町 21-2107	〇次長	県営地域用水環境整備事業 全体実施技術検討委員会業務 委員会1回	1,700	H.13.12.20
【池尻】 奈良県大和高田 21-2108	〇次長	水環境整備事業 全体実施技術検討委員会業務 委員会1回	940	H.13.08.31
【広陵町】 奈良県広陵町 21-2109	〇次長	水環境整備事業 基本計画技術検討委員会業務 委員会1回	940	
【西山町】 新潟県西山町 94-9403	〇次長 (K統括)	西山町 農村環境計画 委員会3回 WT4回 報告会1回	9,500	H.14.03.25
【信濃調】 新潟県北蒲原 7-104	S次長	「阿賀野川地域」総合機能強化 計画調査業務	1,450	H.13.12.27
【トキ】 本省資源課 6-12	(Y)	人と野生生物が共生する 農山村構築事業	7,488	H.14.3.20
【石下町】 茨城県石下町 93-9314	〇次長	石下町 農村環境計画 委員会2回 打ち合わせ3回	4,700	H.14.03.15
【那珂川】 茨城県水戸市	〇次長	環境との調和に配慮した事業計画	3,260	H.14.03.25

表-1 平成12年度業務(2000年4月～2001年3月)

地区名 事番一地区番	担当部次長	業務内容	金額 消費税抜き (千円単位)	工期
《利根中央》 11-1112	〇次長	国営利根中央農業水利事業 新田用水路 環境保全対策	1,860	H.12.06.30
【西讃南部】 41-4106	〇次長	県営 農道環境診断調査 その2業務	5,150	H.13.03.31
《弥彦地区》 22-2204	〇次長	県営 地域用水環境整備 御新田地区(弥彦村) 指導・助言業務	1,500	H.12.11.26
【板倉地区】 93-9324	〇次長 (K統括)	板倉町 農村環境計画	8,355	H.13.03.31
【新発田】 93-9323	〇次長 (K統括)	新発田市 農村環境計画	9,469	H.13.03.25
【立石池】 21-2109	〇次長	水環境整備事業 立石池地区 全体実施計画助言業務	1,950	H.13.02.28
【信濃川】 7-102	〇次長	信濃川水系調査事務所 農業基盤整備事業の展開と農業 技術の変遷に関する調査業務	1,810	H.13.03.16
【信濃川】 7-105	〇次長	信濃川水系調査事務所 「阿賀野川地域」総合機能強化 計画調査業務	1,390	H.13.03.16
【環境庁】 8-203	〇次長	環境庁自然保護局 共生と循環の地域社会づくり モデル事業(佐渡地区)	3,000	H.12.11.27～ H.13.03.30
【足羽川頭首工地区】	I部長	福井県 地域用水パンフレット作製業務	3,500	H.13.1.30～ H.13.03.19
足羽川地区	I部長	足羽川堰堤土地改良区連合 指導・助言業務 等	850	H.13.1.29～ H.13.03.30

(草稿)

表- 3 平成 14 年度業務 (2002 年 4 月～2003 年 3 月)

地区名 所在地 事番一地区番	担当部次長	業務内容	金額 消費税抜き (千円単位)	工期
【大江川】 愛知県一宮市 21-2101	O次長	地域用水環境整備事業に関する 助言・指導業務 委員会1回	1,190	H.15.02.28
【西讃南部】 香川県観音寺 41-4101	S次長	県営 農道環境診断調査 その4業務	5,050	H.15.03.15
【野生生物】 本省資源課 6- 602	S次長	人と野生生物が共生する 農山村構築事業	6,788	H.15.03.20
【那珂川】 茨城県水戸市 11-1122	S次長	環境との調和に配慮した事業計画	見積 4,040	
【東和町】 福島県東和町 93-9306	S次長	農村環境計画 1年目 委員会1回	4,315	H.15.03.24
【二本松市】 福島県二本松市 93-9305	S次長	農村環境計画 1年目 委員会1回	4,100	H.15.03.20
【鹿島町】 福島県鹿島町 93-9308	S次長	農村環境計画 1年目 委員会1回	4,080	H.15.03.25
【茅ヶ岳東部】 山梨県韭崎市 41-4103	S次長	広域営農団地農道整備事業 環境影響調査業務委託 専門家ヘヒアリング1回	4,260	H.15.03.15
【茅ヶ岳東部】 山梨県韭崎市 41-	S次長	広域営農団地農道整備事業 環境影響調査業務委託 動植物春1回、委員会1回	見積 5,700	H.15.03.15
【九頭竜】 福井県	S次長	環境との調和に配慮した事業計画	見積 15,000	